

卒業式式辞

卒業生の皆さん、また、ご来場の保護者の皆様、「本日は、誠にめでとうございます」。教職員や在学生一同を代表して、皆様に心からお祝いを申し上げます。

保護の皆様には、これまで卒業生の学びを3年間あるいは4年間サポートしていただきましたことや、本校の教育活動に対するご理解やご支援にも、深く感謝致しております。この場を借りて、お礼を申し上げます。

ありがとうございました。

卒業生の皆さんが今日この日を迎えられたことは、皆さん一人ひとりの努力の結晶であり、本当にすごいことであると感じております。特に、国家試験のための追い込みは、「これまでの人生にこんなに勉強したことはなかった」と皆さん自身がそう思えるほど、素晴らしい頑張りであったのではと感心しております。

ただ、これまでの学びには、保護者の皆さんだけでなく、本校の教職員、さらには、実習施設やインストラクターの皆さんなどのご支援も忘れないでください。

さて、皆さん、皆さんは、これから医療の専門職として新たな一步を踏み出します。しっかり、知識と技術を身につけた皆さんに、校長として、最後に一つだけお伝えしたいことがあります。

それは、「手でメモを取る習慣を持ち続けてほしい」ということです。デジタルの時代ですから、記録はスマートフォンで簡単に残せます。

しかし、あえて私は「手で書く」ことをお勧めいたします。そのため、私の拙い経験を少しお話しさせていただきます。

私は、40代の初めまでは、神経科学分野の研究一筋の生活でした。その時、スーパーバイザーから（私の指導教員から）、「手書きは脳の広い領域を同時に働かせ、記憶の定着を強める。だから、できるだけノートせよ」と言われました。これは、ノートに何かを書くとき、私たちは無意識に内容を選び、要約し、再構成します。その過程そのものが学習となるからです。

それゆえ、当時の私は、実験データだけでなく研究における行き詰まりは克明にノートしました。

その後、教員になってからは学生の一言も書き続けてきました。また、会議で感じた違和感、新聞の記事への疑問、お風呂での思いつき、さらには、夢に見たことまでも、メモに書き留め、時間を置いて読み返してきました。

もちろん、よくわからないことは調べ、そこに付け加えていました。

すると、どうでしょうか。その当時は見えなかった「自分の未熟さ」や「思い込み」、あるいは「少しだけの成長してきた跡」が見えてきます。心理学的には、「感情を言語化

することが、心を安定させる効果を持つ！」ことも示されています。書くことは、自分を客観視する「メタ認知」を育てることにもなります。

医療の現場では、皆さんは「多くの感情」と向き合います。患者さんの不安、家族の涙、自分自身の迷い、上司や周囲のスタッフからの叱責やアドバイス。そんなとき、どうかメモに書いてください。「なぜ自分は先ほど、心が揺れたのか」とか、「あの言葉はどんな意味があったのか」などなど。そんな問いや疑問を書き残し、後で読み返すことが、皆さんを謙虚で成熟した医療人へと導きます。

卒業は英語で graduation と言われますが、決して学びの終わりではありません。教科書のない学びの始まりなのです。卒業を意味するもう一つの英語に commencement という言葉がありますが、この言葉には同時に始まりという意味もあります。

そして、皆さんが新たな学びを始める時、皆さんを支えるのは「国家資格」ではなく、実は、「考え続ける習慣」なのです。

皆さんもよくご存知でしょうが、昨年の大リーグではドジャーズがワールドシリーズで優勝しました。その時 MVP となった山本由伸投手は、試合中のインング間でも、ノートをしっかり見返し、次に当たる打者に対する戦略をしっかりたてていました。それゆえ、2インング続けてミスすることはありませんでした。

また、現代では高性能な生成 AI モデルはたくさんありますが、その中でも最も有名なものは、皆さんもご存知のチャット GPT でしょう。その開発責任者の一人サム アルトマンも、実はアナログノートのメモ魔です。

そして、それらメモを何度も見返します。

ですから、皆さん、どうか、小さくても良いですから、手帳やノートを持ち続けてください。そこに積み重ねられた言葉は、やがて皆さん自身の臨床哲学となり、人生を支える柱になるでしょう。

最後にもう一度、皆さん、ご卒業おめでとうございます。

拙辞ではありますが、ノートを取ることを、送別の言葉とさせていただきます。

令和8年3月2日

学校法人稲積学園

北都保健福祉専門学校長 林 要喜知



理学療法学科



作業療法学科



看護学科

